

教養科目「留学生と日本-異文化をとおしての日本理解」 レポート課題一覧

次の課題の中から一つを選んで、レポートを作成してください。

レポートは3000～4000字（A4 3枚）程度、ワープロソフトを使って作成し、プリントアウトしたものを提出すること。手書きのものは受け取らない。

1. 松浦まち子

「日本人と日本社会」

○日本人学生向け：「日本人と日本社会：留学生の疑問に答える」

最初に、5名以上の留学生に、日本人の言動や日本社会について留学生が不思議に思ったことや疑問に思ったこと、知りたいことをインタビューしてください。それらの中から3つ選んで、それらについて、インターネットで検索したり、文献で調べて、留学生の疑問に理論的に答えてください。さらに、それをきっかけに日本(人・社会)について考え、自分の意見を述べてください。

○留学生向け：「日本人と日本社会：ここがわからない」

日本で生活する中で、日本人の言動や日本社会について不思議に思ったことや疑問に思ったこと、知りたいことを、日本人の学生にインタビューして説明を求めてください。それらの中から3つ選んで、それらについて母国との比較をしてその違いや共通点について、自分の意見を交えて述べてください。

2. 田中京子

「留学を成功させる5つの鍵：〇〇から〇〇に初めて行く学生たちへ」

留学を希望する人は、事前に何を勉強し、準備したらよいでしょうか。〇〇は国名でも地方名でも、都市名でも結構です。このコースを通して、学生同士で学んだことや自分が感じたことに加えて、文献や友人など他の人の経験や意見を引用しながら、5つの重要な文化的鍵を提示し、その背景となる考え方や価値観を探り、述べてください。

3. 堀江未来

「多文化グループワークから学ぶもの」

今回の授業で経験したグループワークについて、グループが形成された時から今までにどのようなことが起こったかを異文化間コミュニケーション及びグループプロセスの視点から分析してください。分析は、個人の視点からでも、グループメンバーの意見を反映させたものでも、どちらでもかまいません。また、その過程において自分はどのようなことを学んだのか、どのような成長体験となったかを具体的に説明してください。

4. 高木ひとみ

「自分への気づき・自分の価値観への気づき」

今回の授業を通して、自分に対しての発見が多くあったのではないかと思います。さらに気づきを深めるために、この課題では、次の3つのポイントについて、洞察し、レポートで述べてください。

(1) 自分が育ってきた環境を振り返る (目安: 約1ページ)

あなたは、どのような人々の中で育ってきましたか? どのような地域や文化的影響を受けて育ってきましたか? 自分の育ってきた環境について振り返りながら説明してください。

(2) 自分の価値観に影響を与えた人やエピソード (目安: 約1ページ半)

自分の価値観について影響を与えた人やエピソードを選んで、以下のテーマについてどのような影響を受けて、今の自分はどのような価値観を持っているか述べてください。

(テーマはこの中から、2〜3つ選んでください: 家族観、男女の役割、結婚観、子育て、教育、仕事、お金、宗教、地域貢献、生き方など。)

(3) 異なる価値観を持つ人たちとコミュニケーションを取り、共同作業をする際にどのような工夫が必要だと思いますか? これまでの体験や授業で学んだことをもとに、自分の考えを述べてください。(目安: 約半ページ)

5. 浮葉正親

グループで発表したテーマについて、発表しきれなかった資料や意見があれば、それをまとめてください。

※提出期限: 2月3日(金) 午後5時

提出先: 留学生センター1F 国際課内にある「浮葉」のメールボックス
同課員に依頼して入れてもらってください。

(注意)

○レポートの構成がはっきり分かるように、タイトルの下に目次をつけること。

(例)

日本人の妖怪観を考える-漫画や映画に登場するキャラクターを中心に-

(目次)

1. はじめに
2. 妖怪とは何か
3. 漫画やアニメに登場する妖怪
4. ホラー映画に登場する妖怪
5. おわりに

○表紙にテーマ番号と担当教員名を明記すること

(例)

テーマ 5 浮葉

○参考文献、参考 URL は末尾に一覧を作成すること

(例)

<参考文献>

小松和彦編 (2003) 『日本妖怪学大全』 小学館
常光徹 (1993) 『学校の怪談』 ミネルバ書房

<参考 URL>

怪異・妖怪現象データベース <http://www.nichibun.ac.jp/youkaidb/> 国際日本文化研究センター

○引用した文献の内容と自分の意見を区別すること

(例)

小松和彦によれば、妖怪とは「人びとに『あやしい』という念をおこさせたもの、『怖い』という念を抱かせたことのすべてを意味する」(小松 2003:11) という。しかし、その定義はあまりにも漠然としすぎているのではないだろうか。

常光徹は学校のトイレや階段、特別教室という特定の空間が怪談の舞台となっていることに注目している(常光 1993:3-27)。私が通っていた中学校では、夜中の 12 時になると音楽教室で...